

「橋」と「国際」

2005年10月14日

株式会社 アイ・エス・エス
中村 裕司

私が学んだ 国際的』

ルールはひとつ

コントラクト・マインド (Contract Mind)



パー・スペック (Per Specifications)

“コントラクトはバイブル”

議論は沈着に

1 事実に基づく主張 Fact Finding

2 論理的な展開 Logical Thinking

3 ハード・ネゴ Tough Negotiation

4 攻撃精神 No Personal Criticism

イコール・パートナーシップ

官・民 無差別

元請・下請 無差別

女性企業・少数民族企業 保護

人格の陶冶

1

信用第一

Credibility

2

不偏不党

Fairness

3

惻隠の情

Hospitality

ヤンキー魂 大和魂 (1)

万機公論に徹すべし

Outreach Briefing

Workshop Facilitation

ヤンキー魂 大和魂 (2)

和を以って貴しとなす

Partnering

Dispute Review

Mediation

Arbitration

日米の橋梁設計

橋梁設計の流れ (1) -米国-

(計画、調査、評価は省略)

Preliminary:30% Design



Peer Review

Advanced Detail :65%Design



CRIP

Final :100%Design

Consulting Firm

(工事発注)



Detailing :Shop Drawing

Detailer



RFI

Approval :Shop Drawing チェック

Consulting Firm

橋梁設計の流れ (2) -日本-

(計画、調査、評価は省略)

(本省・自治体)

基本設計

↓
詳細設計

(工事発注)

↓
原寸

コンサル

(公団・公社)

基本設計

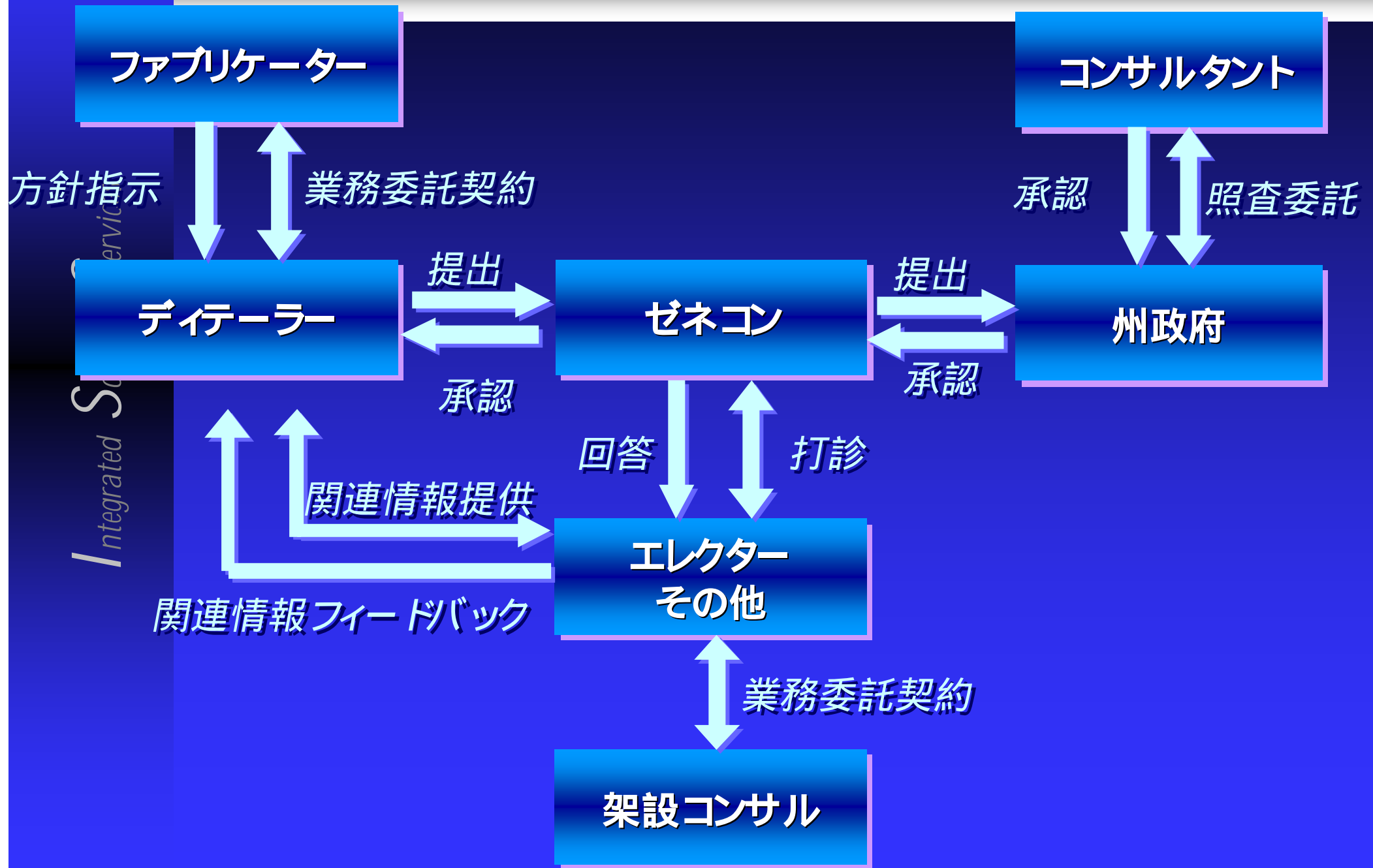
(工事発注)

↓
詳細設計

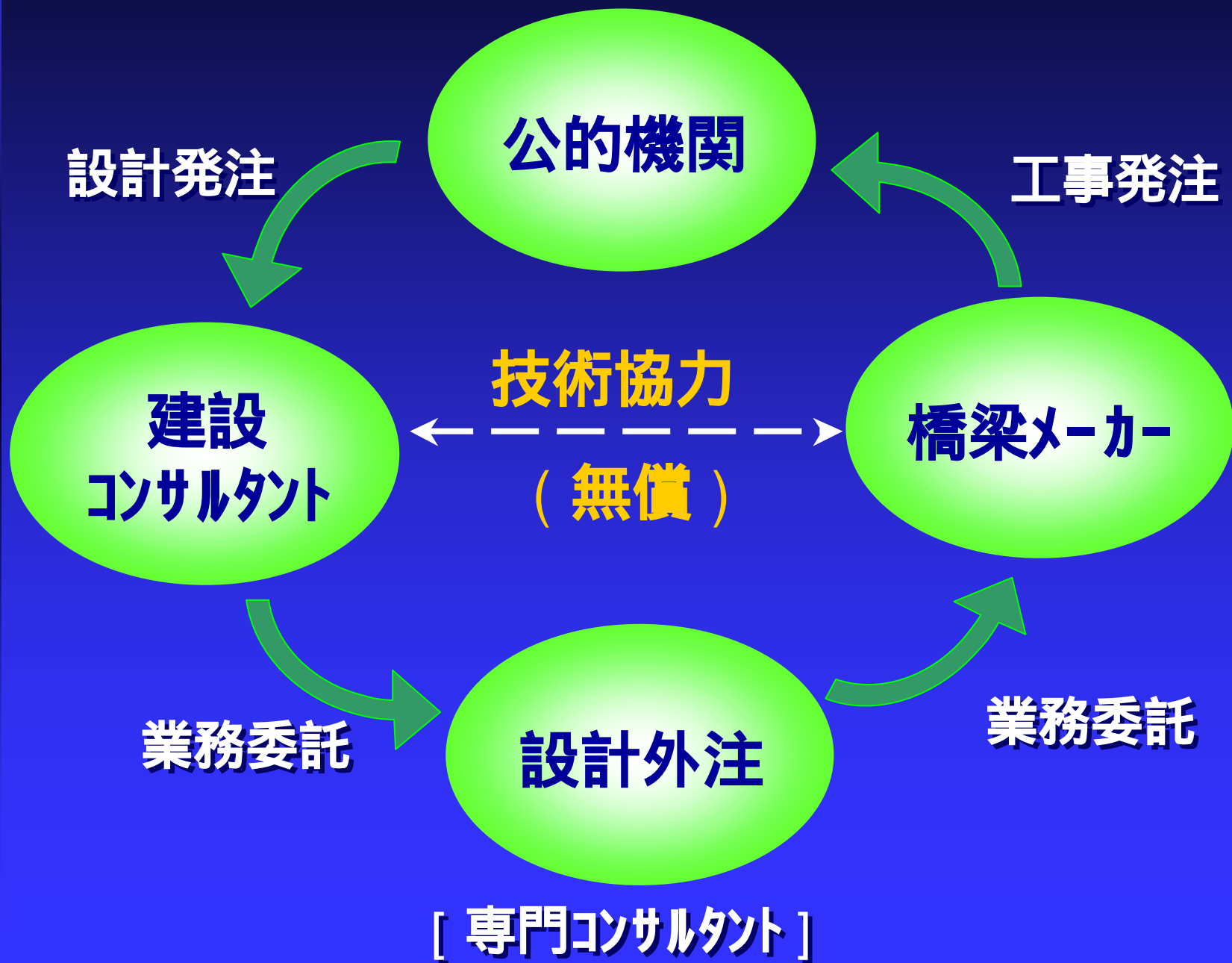
↓
原寸

請負者
(メーカー・ゼネコン)

橋梁設計の流れ (3) -米国 製作図-



橋梁設計の流れ (4) -日本・実態-



日米コンサルタントの違い(1)

- 施工に対する役割 -

- 1 施工図(Shop Dwg, Erection Dwg)照査・承認
- 2 設計に影響する施工要領の承認
- 3 設計変更(Plan Change)の発行
- 4 設計変更提案(Change Proposal)の照査・承認
- 5 公的記録(Engineer's Official Report)の作成

日米コンサルタントの違い(2)

-検査に対する役割-

1

契約図書と実工事の不一致の摘発

2

工事停止の権限

3

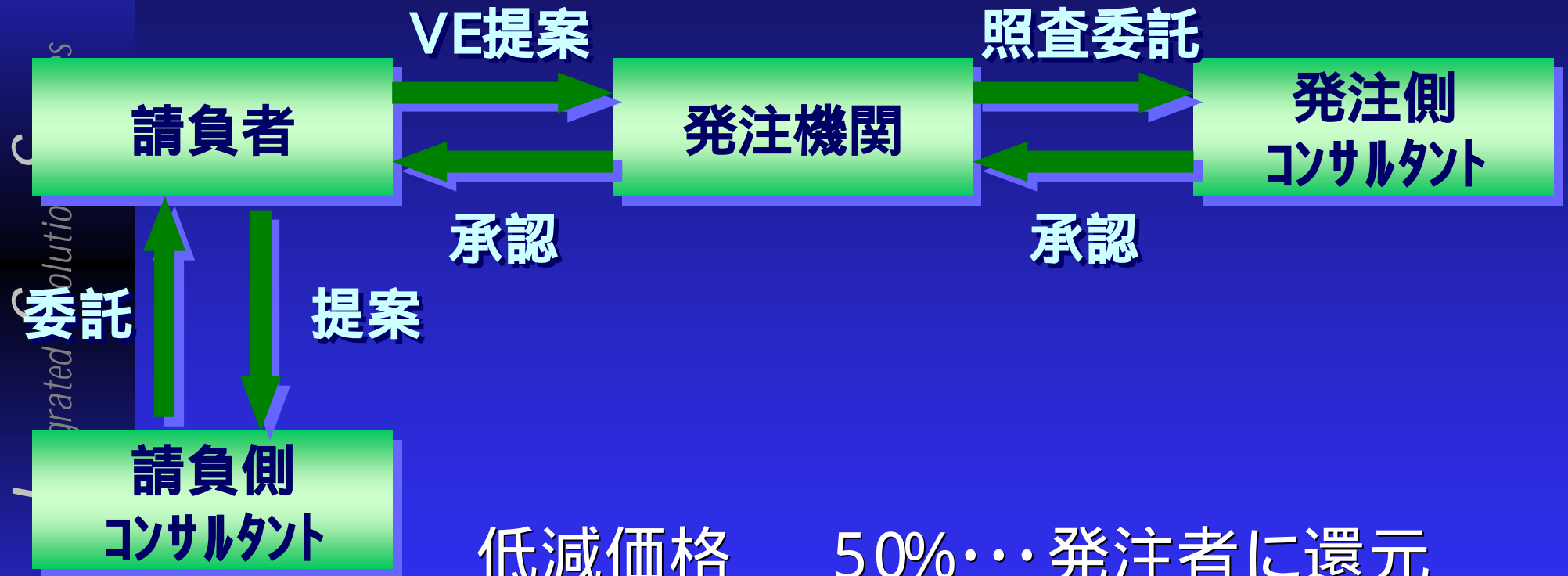
各種施工試験の実施と承認

4

プロセス監理

日米コンサルタントの違い (3)

-VEに対する役割-



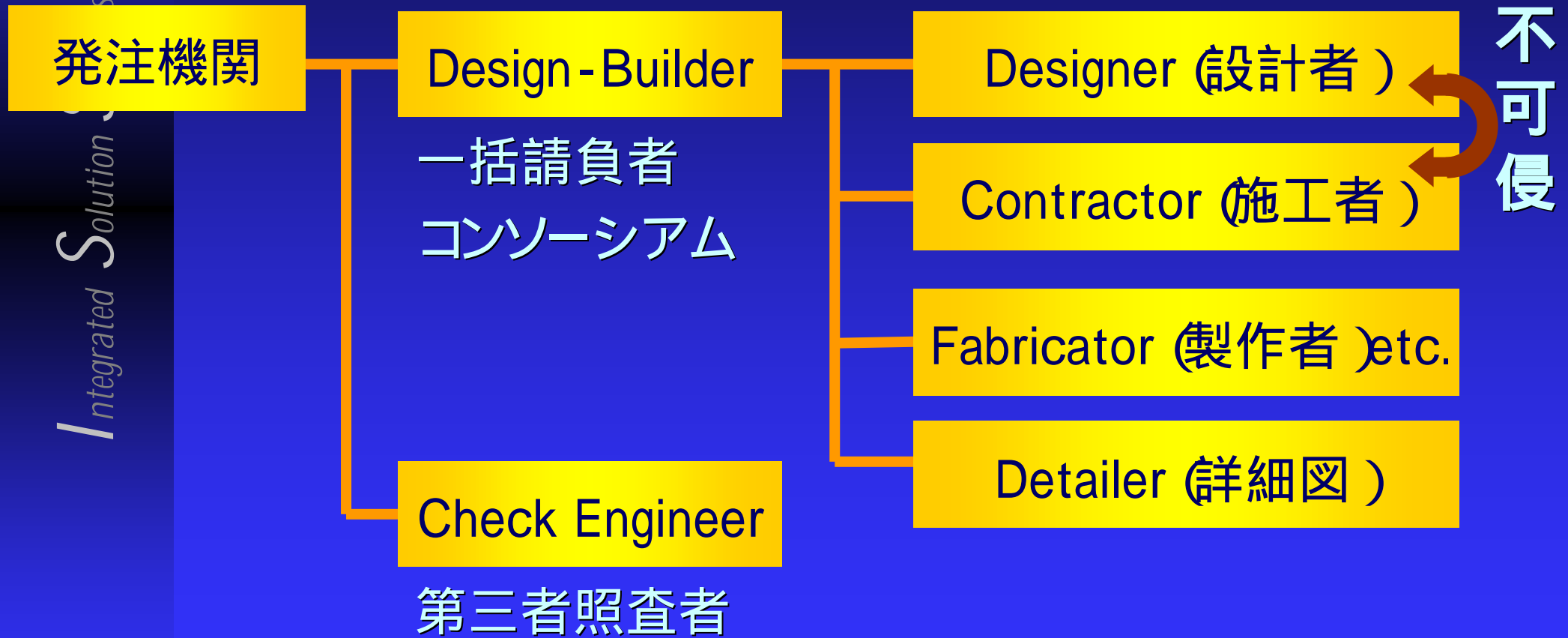
低減価格

50%・・・発注者に還元

50%・・・請負者の利益

日米コンサルタントの違い (4)

-DBに対する役割-



日米コンサルタントの違い (5)

-日本にはない制度-

- 1 ピア・レビュー (Peer Review)
- 2 チェック・エンジニア (Check Engineer)
- 3 CRIP (Cost Reduction Incentive Program)
- 4 EOR (Engineer's Official Report)
- 5 RFI (Request for Proposal)
- 6 DRB (Dispute Review Board)
- 7 パートナリング (Partnering)

私の『吐木家』

複合専門家 - ‘技術屋’になるな

近代的な橋梁技術者とは、

冶金学者であり

数学者であり

地盤専門家であり

鋼構造架設者であり

芸術家であり

そして何より先

人類の指導者であるべきだ

D.B. Steinman “Bridges and their Builders”(1957)

個立無縁 - 官に頼るな

“建設コンサルタントというのは、実は**存在してはならない業種**なんですよ。**黒子**、**というんですかねえ**。法律上は設計者がいて施工業者がいる。公共工事では設計はお役人の仕事ですから、**コンサルというものはどこにも存在していない**。でも、現実にニーズはあるから、そのニーズを埋めるかたちで業態は発展してきたんです。**裏方に徹しながら・・・”**

「公」の研究

「…もし橋梁を見ば、まさに願うべし。
衆生、法橋を興造して、人を度して休
まらざんと」

あらゆる人を隔てなく、こちらの岸からあちらの
岸へと渡す橋。その橋を見たならば、人々よ、己
が心の内に「法橋」、つまり「有徳の橋」を架け、
人々を渡すことを願いとせよ。(私訳)